

腎臓リハ NEWS LETTER

<https://jsrr.smoozy.atlas.jp/ja/>

発行：一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会 筑波大事務局
〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院内
Fax: 029-896-7746 E-mail: kanri@jsrrtsukuba.com

腎臓リハビリテーション指導士の 動向と資格更新について

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会
指導士認定制度委員会委員長 松永 篤彦

2018年3月に発足した「腎臓リハビリテーション指導士制度規則」に基づき、第1回の腎臓リハビリテーション指導士(指導士)資格認定試験が2019年3月10日(第9回日本腎臓リハビリテーション学会・学術集会)に実施され、365名の指導士が誕生いたしました。第2回目は2020年2月23日(第10回日本腎臓リハビリテーション学会・学術集会)に実施され、指導士資格取得者は82名でした。その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響で認定試験は順延され、第3回は2022年9月17日、第4回目は2023年10月14日に Computer Based Test を導入して全国の各地の試験会場で実施され、現在、指導士取得者の合計は738名となっております。現在の指導士取得者の内訳を職種別にみると、医師155名、看護師41名、理学療法士448名、作業療法士32名、言語聴覚士6名、臨床検査技師5名、管理栄養士5名、臨床工学技士33名、臨床心理士(公認心理師)1名、および健康運動指導士12名となっており、医師、看護師および理学療法士が全体の8割以上を占めています。

特記すべきは、第3回の認定試験が実施された2022(令和4)年度の診療報酬改定によって「透析時運動指導等加算」が可能となったことです。この診療報酬加算を算定できる職種は医師、看護師、理学療法士および作業療法士で、当学会が主催する講習会を修了した者に限られていますが、腎臓リハビリテーションを展開する現場において、指導的役割を求められているのは指導士取得者に他なりません。

こういったなか、第14回日本腎臓リハビリテーション学会・学術集会(2024年3月16-17日)において、「腎臓リハビリテーション指導士の現状と展望」と題したシンポジウムが企画され、医師、看護師、理学療法士、および管理栄養士の各職種を代表する演者に指導士の

役割と課題について述べていただきました。特に、病態および合併症の客観的評価、治療内容の見直し、さらにはエビデンスに基づいた必要かつ実践可能なアプローチについてチーム内で方針を共有する指示役(指導的役割)が期待されていることが示されました。また、山縣邦弘理事長からは今後の展望として、指導士有資格者の増加と初の指導士更新を控え、指導士資格を有効とする更なる保険収載の実現のためにエビデンスの創出に力を注ぎ、指導士各自の診療能力と指導能力のレベルアップを図る必要性が述べられました。

このように、指導士更新は本学会として極めて重要な手続き(システム)であり、本更新は指導士取得後5年ごとに求められ、その5年間に当学会主催の学術集会に2回以上参加していること、当学会が認定する単位を50単位以上取得していること、および当学会の会費を完納していることなどが条件となっております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、第1回ならびに第2回指導士試験合格者は指導士認定期間が1年間延長されています(特別措置)。また、指導士認定制度委員会は事務局と共同で指導士更新手続きのためのシステム構築を漸次進めており、新潟で開催された第14回大会ではQRコードシステムを用いて大会参加による単位登録を試行的意味合いも含めて実施いたしました。さらにその他の単位登録についてもWEB上で登録できるシステムを構築中です。指導士更新については特に単位取得等の個人管理が必須となることから、会員の皆様が単位登録ならびにその状況を簡便に確認できるシステムを目指しております。上記の情報については学会HP等で逐次更新いたしますので、指導士認定試験実施を含め、指導士更新手続きについて所属する施設内(チーム内)で共有いただければ幸いです。

腎リハ「YouTubeチャンネル」紹介

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会
教育研修委員会委員長
柴垣 有吾

1. なぜ YouTube なのか？

日本腎臓リハビリテーション学会の教育研修委員会では、学会員の皆様のサステナブルな教育や研修のあり方を追求してきました。特に、透析リハに診療報酬が付いてからはリハの実践の経験値の低い医療者が本格的な腎リハを行う必要性が出てきており、学術集会での教育では、その頻度(年に1回)や内容(座学的なものに偏りがち)から限界があることを痛感してきました。また、実践的リハ教育の講習会などを開くことも、学会の財政的な問題や会員の方々の時間と経済的な負担を考えるとサステナブルかつ広く行うことが難しいと考えました。

教育研修委員会の会合の中で委員の一人(兵庫医大・松沢委員)から多くの方が SNS で情報を得ており、それほど多忙な業務の中でも時間もかからず、何回でもアクセスでき、かつ視覚で行う意味でも実践的な教育が YouTube なら可能なのではないかとの提案があり、全会一致で賛成し、理事会でも承認を得ました。

YouTube 作成は財政的な事情もあり、教育研修委員会の委員を中心とした会員の方々に手弁当で作成してもらっていますが、しっかりと学術委員会の先生方にレビューを頂くことで質を担保したものとなっています。時間は10分前後までとしており、多忙な業務の中でも気軽に観て頂けるものと考えています。現時点で公開している動画は腎リハを幅広く知ってもらうために、期間限定で非学会員でも見れるように公開しております。是非、多くの皆様に御視聴頂ければと思います。

2. 実際の視聴方法

日本腎臓リハビリテーション学会 Home Page のトップページメニュー

「公式 YouTube チャンネル」からご視聴頂けます。
(<https://jsrr.smoosy.atlas.jp/ja/youtube>)

3. YouTube のコンテンツ

現在、9つの公式 YouTube 動画と1つの非公式 YouTube 動画(会員施設が独自に作成した教育動画を事例紹介したもの)が当学会の Home Page からアクセス可能となっています。

公式 YouTube 動画の内容としては以下のものが現在公開中です

01. 歩行速度の測り方
02. 下腿周囲長の計測方法
03. SPPB の測り方
04. バランステストの実施方法
05. 歩行テストの実施方法
06. 椅子立ち上がりテストの実施方法
07. 握力の正しい測定方法
08. 腎臓リハビリテーション 紹介と導入方法
09. 腎臓リハビリテーション 開始時のアセスメント

1-7は理学療法士が作成し、8と9は看護師が作成しており、今後の腎リハの担い手として中心的役割を果たすであろう看護師の視点を加えたものとなっています。

今後は理学療法士や看護師に加えて、医師・管理栄養士などにも作成を依頼して、以下のような内容の YouTube の作成を予定しています。この動画は学会員特典として、まずは学会員向けに限定公開をしていくことで検討をしています。

理学療法士担当	ゴムチューブ運動
	6分間歩行試験
	サルコペニア(AWGS)
	神経筋電気刺激の実施
	透析中のエルゴメータ運動
	立ち座り運動
	レジスタンス運動
	Timed up and go test
	保存期腎リハの実践法： ウォーキング教室と外来指導
管理栄養士・看護師担当	リハビリテーション栄養とは
	食事療法の注意点 エネルギー、たんぱく質(保存期)
	食事療法の注意点 食塩・カリウム・リン(保存期)
	食事療法の注意点 エネルギー、たんぱく質(透析期)
医師担当	食事療法の注意点 食塩・カリウム・リン(透析期)
	腎リハにおけるリスク管理 (腎リハ実施前の評価・禁忌)
	保存期 CKD 患者に腎リハは何故必要か？
	透析期 CKD 患者に腎リハは何故必要か？
	腎移植患者に腎リハは何故必要か？
慢性腎臓病透析予防指導管理料	
透析時運動指導等加算	

今後は会員の皆様の要望に応じた内容を作成できればと考えております。ご意見などがあれば、日本腎臓リハビリテーション学会事務局 jsrr@flexibleinc.jp までお願い致します。

第14回学術集会報告

第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
会長 成田 一衛

新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターセンター長
(新潟大学名誉教授)

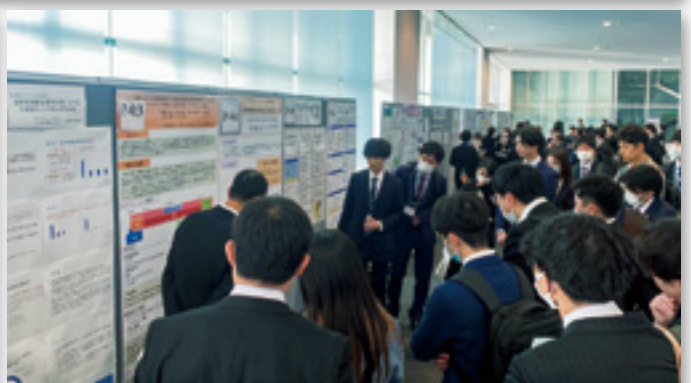
2024年3月16(土)-17日(日)、新潟市朱鷺メッセにて第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を開催致しました。3月の新潟には好天に恵まれ、盛会のうちに終了しました。今会は、“患者中心の腎臓リハビリテーション～治し、癒し、祈る～”をテーマと致しました。多職種からなる医療チームの“中心”に患者本人が在るべきで、人生会議、共同意思決定、保存的腎臓病治療などの必要性は認識され、ガイドラインも公表されています。一方、それらを日常臨床において適切に実践することは容易ではなく、さらなる医療体制や医療技術の確立、社会環境の整備が必要です。私共医療者は、疾患に対して医学的に最善の治療を行うと同時に、患者個々の人生観や意思を尊重して寄り添うことが求められます。そのためには十分な相互理解、患者を中心とする医療チームでの対話が重要であり、“治し、癒し、祈る”にはこの想いを込めました。

本会では今までの本学会の成果に基づいて、さらな

る腎臓病患者のQOL向上、腎予後・生命予後の改善のための取り組みや研究成果を共有したいと考え、多くのシンポジウムや企画を設定しました。また緊急企画として能登半島地震でのCKD、腎不全患者のケアの経験をご発表頂き、日頃の備えの参考になればと考えました。新潟ならではの企画として、会員懇親会の直前に“日本酒と腎臓”と題したシンポジウムを行い、日本酒を楽しみながら日本酒学、醸造学、さらには腸管細菌叢と腎臓に関する最先端の知見を学ぶ企画を行いました。

200件を超える一般演題、YIAセッション、シンポジウム、教育講演、特別講演などに加え、特別企画として新潟を代表する芸術家で文化庁長官を務められた宮田亮平氏をお招きし、芸術・文化と“癒やし”・“祈り”について皆様とともに考える機会になりました。

末筆ながら、ご参加頂いた先生方、ご協賛頂いた企業の皆様に厚く御礼申し上げます。本学会と皆様の益々の御発展を祈念致します。有り難うございました。



第14回学術集会 Young Investigator Award 受賞者紹介



小島 将 嬉泉病院リハビリテーション科

「透析中運動療法が透析中の局所脳酸素飽和度に与える急性効果： ランダム化クロスオーバー試験」

この度は、第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 最優秀賞にご選出頂きまして誠に光栄に存じます。ご指導頂きました嬉泉病院院長の上畑昭美先生、リハビリテーション科科長の臼井直人先生、新潟医療福祉大学の椿淳裕先生、ご協力頂いた嬉泉病院スタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。本研究は、透析中に生じる局所脳酸素飽和度(rSO2)低下に対する透析中運動療法の急性効果を検証し、透析中運動療法は運動中にrSO2を増加させ、透析中のrSO2低下を一時的に予防することが示されました。本研究の結果は、透析中運動療法による認知機能維持・向上のメカニズム解明の一助となり得ると考えております。また、審査員の先生方からのご指摘を参考に、更に本研究を進展させていく所存です。この度の受賞を励みとして、微力ながら腎臓リハビリテーション分野の発展に貢献できるよう今後一層精進して参ります。



高橋 蓮 偕行会城西病院 技術部リハビリ課

「透析中運動療法による HRQOL の改善に関連する身体機能/ 身体症状の検討」

この度は、第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞に御選出いただき、誠に光栄に存じます。研究のご指導頂きました聖隷クリストファー大学の矢部広樹准教授をはじめ、ご協力いただいた、医療法人偕行会の山田哲也理事長、名古屋共立病院の森山善文部長、偕行会城西病院の石川英昭副院長、日比野貴志課長、森下沙友美さんに深く感謝申し上げます。我々の研究は、透析中運動療法によるHRQOLと身体機能/身体症状の解析から、SPPBの改善と歩行距離延長の自覚がHRQOLに関連することを明らかにしました。本研究の結果は、HRQOL向上を目的とした運動療法のアウトカムを検討する一助となると考えております。この度の受賞は、透析中運動療法の運営やデータ収集に携わって下さった偕行会グループの皆様のおかげであると考えています。引き続き、研究活動を通して、腎臓リハビリテーション分野の普及と発展に貢献できるよう、一層精進して参ります。



富澤 満 奈良県立医科大学 泌尿器科学講座

「免疫抑制剤の腸内細菌および筋量への影響」

この度は第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞に御選出いただきまして誠に光栄に存じます。我々は今回、マウスに腎移植後使用する各種免疫抑制剤を内服させタクロリムスとプレドニゾン内服群で骨格筋量低下および筋繊維の萎縮を認めました。またタクロリムスとプレドニゾン内服群ではその他の群と比較し腸内細菌叢の差を認め、免疫抑制剤・腸内細菌叢・骨格筋の関連が示唆されました。本研究の結果は、腸内細菌叢への介入が腎移植後のフレイル・サルコペニア改善に寄与する可能性を示唆していると考えております。この度の受賞を励みに今後の臨床や研究活動、腎臓リハビリテーション分野の普及と発展に貢献できるよう、今後一層精進して参りたい所存です。今後ともご指導のほど、何卒宜しくお願い致します。



聖マリアンナ医科大学病院

聖マリアンナ医科大学病院 リハビリテーションセンター 平木 幸治



1. 病院紹介

当院は1974年に開設され、神奈川県川崎市に立地する許可病床955床の特定機能病院です。2023年1月に創立50周年記念事業の一環として新入院棟が完成し、2025年1月には新外来棟、エントランス棟がリニューアルオープンする予定となっています。

2. CKD 患者に対するチーム医療

当院では2006年に糖尿病性腎症外来を開設し、次いで2011年にはCKDの教育入院を、そして2024年1月からはCKDの教育外来を開設し、多職種によるチーム医療によってCKD患者の重症化予防に取り組んできました。その他にも、多職種による腎臓病教室やウォーキング教室も年に数回行っています。

3. CKD 教育入院



当院ではステージG3b以降のCKD患者を対象としたCKD教育入院を1週間のプログラムで行っています。教育入院の目的はCKDの進展抑制・遅延のための学習(日常生活の注意点、食事、薬剤、運動など)とCKDに関連する合併症の精査になります。また、将来的に腎代替療法の導入が必要な患者に対しては血液透析、腹膜透析、腎移植に関しても情報提供を行っています。この教育入院は医師、看護師、管理

栄養士、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、ソーシャルワーカーの多職種により重症化予防チームを結成し、定期的なカンファレンスを行いながら運営しています。その効果としてもCKDの進行を長期的に抑制する効果、CKDステージG5から透析導入までの期間を延長させる効果、透析導入後の良好な生命予後へ与える効果について報告してきました。

4. ウォーキング教室

2016年より運動療法の実践編として保存期CKD患者を対象としたウォーキング教室を5月と11月の年2回の頻度で行ってきました。このウォーキング教室は、腎臓・高血圧内科の医師と理学療法士が中心となり1時間程度の講義(運動療法の必要性や自宅で可能なレジスタンス運動の実施)を行った後に、歩数計を装着して多摩川の河川敷を1時間程度、歩数にして約5,000歩程度のウォーキングを行っています。普段、運動習慣のないCKD患者に参加してもらい、多摩川の綺麗な景色を見ながら、楽しく運動することで、運動療法を始めるきっかけ作りを目的にこのような活動を行っています。



聖マリアンナ医科大学病院

〒216-8511
神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
TEL: 044-977-8111
URL: <https://www.marianna-u.ac.jp/hospital/>

第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会のご案内

第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

大会長 **小林 修三** 湘南鎌倉総合病院 院長
副大会長 **河辺 信秀** 東都大学 幕張ヒューマンケア学部理学療法学科 教授
事務局長 **石岡 邦啓** 湘南鎌倉総合病院腎臓病総合医療センター 部長

この度、第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、2025年3月15日(土)と16日(日)の2日間、パシフィコ横浜会議センターにて開催致します。

テーマは「楽しいから始める腎リハ〜ウェルビーイングな暮らしを求めて」としてあります。SDGs (Sustainable Development Goals)の目標の一つである Good Health と Well-Being を根幹に、『「楽しく」リハビリすることによりその人らしい生活を「楽しく」送ること』の重要性を掲げました。近年、腎疾患患者の高齢化に加え、尿毒症・栄養障害・食事制限など腎疾患の病態や固有の問題等に伴うフレイル・サルコペニアが進行するにつれ、生命予後が低下するだけでなく、健康寿命が損なわれる深刻な問題に直面し続けております。2018年の腎臓リハビリテーショ

ンガイドラインの発刊・腎臓リハビリテーション指導士制度の確立、2022年透析時運動指導時加算の算定、など本学会の活動の成果は社会に対し大きな影響を及ぼしておりますが、心血管疾患・認知症・下肢動脈疾患などの様々な合併症を抱えるCKD・透析・腎移植患者のリハビリテーションの分野においては、解決すべき問題は多く残されております。

これらの問題に対し、本学術集会では、医師、理学療法士、看護師、保健師、管理栄養士、行政、企業に至る様々な分野の会員が一堂に集まり、研究成果や医療現場で抱えている問題点などについて有意義な議論を積み重ねる場となることが期待されます。

今回、新しい試みの一つとして、日本音楽療法学会と協力して音楽療法に関するシンポジウムや、トップアスリートの診療に携わるスポーツ総合医学の方と協力した企画、また会場で実際に身体を動かしながら参加する企画など幅広く準備しております。

特別講演には神奈川県知事黒岩祐治氏、女子マラソン金メダリスト有森裕子さん、女優とよた真帆さん、男子体操金メダリスト米田功さん等々、多方面からゲストスピーカーをお招きする予定です。

鎌倉市は横浜から約30分と地の利もよく、鶴岡八幡宮・鎌倉大仏・江ノ島などの全国的に有名な観光地に加え、建長寺・円覚寺などの歴史ある由緒ある仏閣、さらにはしらす・鎌倉スイーツ・鎌倉野菜などの食の楽しみも多くございます。

多くの皆様にご参加いただけることを心から楽しみにしております。



会 期：2025年3月15日(土)~16日(日)

会 場：パシフィコ横浜会議センター

会 長：小林 修三(湘南鎌倉総合病院 院長)

U R L：https://www.congre.co.jp/jsrr2025/

事務局：湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター

運営事務局：株式会社コングレ

〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

●会員現況 (2024年4月30日現在)

正会員数 3,240名 (医師1,073名 医師以外2,167名)

施設会員 168施設 賛助会員1社

●役員

理事長	山縣邦弘						
副理事長	伊藤 修	柴垣有吾	松永篤彦				
理事	倉賀野隆裕 平木幸治	上月正博 深水 圭	小林修三 星野純一	齊藤正和 牧田 茂	武居光雄 水内恵子	中元秀友 宮崎真理子	成田一衛 和田 淳
監事	伊藤貞嘉 柏原直樹						
幹事	石川祐一 原田 卓	伊藤大亮 藤井直彦	小坂志保 細島康宏	斎藤知栄 松沢良太	櫻田 勉 三浦美佐	祖父江理	飛田伊都子
名誉会員	秋澤忠男 榎野博史	和泉 徹 保嶋 実	伊東春樹	草野英二	斉藤喬雄	中西 健	平松義博
代議員	青池郁夫 阿部貴弥 猪飼 哲 伊東 稔 内田明子 大宮一人 奥田康輔 風間順一郎 北村健一郎 小岩文彦 小林 愛 佐々木環 島田美智子 高田亜紀 田中元子 鶴屋和彦 中島 歩 西村彰紀 花房規男 福岡長知 前田知子 溝渕正英 森下義幸 若林秀隆	明石嘉浩 安保雅博 井垣 誠 今澤俊之 内山清貴 大山恵子 尾崎美紀子 加藤明彦 木村 剛 河野健一 小山照幸 佐々木裕子 清水弘毅 高橋哲也 田原 恒 道免和久 長洲 一 西山 成 濱知 明 藤田 雄 牧野健一郎 満生浩司 森永裕士 脇野 修	浅野貞美 荒川鉄雄 池田大輔 岩根美紀 宇野千晴 緒方浩顕 小田弘明 河辺信秀 木村朋由 小崎恵生 今田恒夫 笹富佳江 庄司繁市 高橋直子 田淵啓二 遠山直志 長田太助 野口雅弘 濱田昌実 藤谷順子 正木崇生 三間 渉 森本哲司 和田隆志	浅見豊子 荒木信一 石井孝典 植田敦志 海老原至 岡本威志 音部雄平 河原崎宏雄 清元秀泰 小関裕二 齋藤久夫 佐藤恵美子 杉山 斉 高山朋子 玉垣圭一 戸田 晋 中村典雄 野村卓生 濱野慶朋 古井秀典 升谷耕介 村上礼一 森山善文 渡辺久美	安達 仁 有馬秀二 磯良 崇 白井俊明 大川卓也 岡本牧子 小幡裕明 神田英一郎 忽那俊樹 後藤真希 齋藤 満 佐藤 信 鈴木祐介 田倉智之 田村岳志 富田泰史 中村秀敏 蓮池由起子 林謙 治 細井雅之 松本竜季 室谷嘉一 谷澤雅彦	安達裕一 安藤康宏 伊藤孝史 白井直人 太田喜久夫 小川真澄 甲斐平康 木田圭亮 熊坂隆一郎 古波蔵健太郎 佐浦隆一 重松 隆 瀬戸由美 武田尚子 田村由馬 友雅 司 中山昌明 長谷川毅 檜垣靖樹 本田浩一 三浦伸一郎 森建 文 安隆 則	阿部高明 安藤亮一 伊東秀崇 宇田 晋 大竹剛靖 小川佳子 笠原正登 北島幸枝 熊坂礼音 木庭新治 佐伯博子 柴田 了 相馬 淳 田中哲洋 土谷 健 長澤康行 西岡心大 畠山真吾 日高寿美 前田清司 三浦平寛 森みさ子 矢部広樹

広報委員会より



第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会は、“治し、癒し、祈る”をテーマに2024年3月16(土)-17日(日)、新潟市朱鷺メッセにて開催されました。成田 一衛大会長と事務局から新潟ならではの、おもてなしを受け、多くの参加者で大変盛況な会でした。2024年4月の現時点では、3,240名、施設会員 168施設まで増加しています。

本誌では松永先生から“腎臓リハビリテーション指導士の動向と資格更新”について松永先生から、“腎リハ「YouTube チャンネル」”について柴垣先生から分かりやすく解説していただいています。是非皆様のご参考として頂ければ幸いです。最後にご多忙の中、本誌へのご寄稿・ご支援頂きました皆様にこの場をお借りし改めて 御礼申し上げます。

(倉賀野隆裕、伊藤 修、原田 卓、田村由馬)

運動療法が体力維持の一環として定着!!

仰臥位用 負荷量可変式エルゴメータ

てらすエルゴ4



低負荷タイプ

TE4-20



高負荷タイプ

TE4-70



NEW
オプション品!

リフト式固定台 TE-LIFT

使用時の「揺れ」対策オプション品

オプション品 汎用式固定台 TE-ANY

使用時の「揺れ」対策オプション品



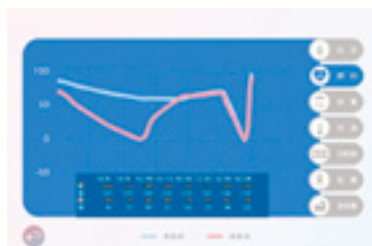
高さ調整が可能!
稼働することができる
車椅子の患者様にも対応



揺れ軽減・設置が容易・省スペース対応

その他
オプション品

てらすエルゴ専用アプリ『TE de 運動管理』



患者様を経過観察しながら
運動データを簡単に確認できます。

専用アプリをタブレットに
ダウンロードして頂き
Bluetooth接続で利用頂けます。

※オプション品についての詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ先

SDG株式会社 ヘルスケアチーム
TEL : 072-870-5708
<https://www.sdg-eng.com/terasu/index.html>

デモ機貸出受付中!

ホームページよりお申込できます。



詳しくは
こちら

SDG